

筒：そうですね。まあちょこちょこって感じで。印象に残ったことは、出展させてもらっていい機会だったっていうのと、最初に来てくれた参加者の方は、4回生の人だったんですけど、今一緒に公演に向けて毎回レッスンに来てくれてる。そういう出会いがあったのもよかった。ユースシンポをきっかけにDELPを知ってくれて、すごくうれしくて、やってよかったと思ってる。今回のトークフリマは対話を大事にしてたじゃないですか。団体側のただの宣伝じゃなくて参加者の活動とかを聞く時間があったりとか、その人がちゃんと話をする時間があったので、対話を大切にしてる形はすごいよかったなと思いました。

高：豊かさ写真を見せるタイミングってあった？

筒：ありました。最初にDELPの活動を説明するんですけど、そのときに写真があったのはないより全然違ったし、DELPって特に小中高大の年代がいてイメージしにくかったり何やってるんだろうって感じがあったと思うので、そこで写真があってよかったって思う

高：うめちゃんは他の団体の写真と話をするなかで豊かさ写真をみた場面はあった？

梅：記憶にないですね。笑

高：だから、見せ方をもっと考えた方がよかったんだろうなあ。場を作る側がもう少ししくみを作ればよかったって、今になって思うことです。

高：準備期間中のワーカーや他のボランティアとの関わりってどうだった？

梅：あのときまだちょっと今より人見知りが強くて、ボランティアの人とはあんまり話せなかったなっていうのはあります。

高：ちなみに団体向けの説明会のときにみんなの前で説明をするっていう経験をしたけど、その経験はどうだった？

梅：ああいう機会はあるしなかったから結構貴重な機会だなーと思いましたけどね。

高：きつかった？

梅：いや、そうでもなかったですね。勢いにのったらそこでやめるわけにはいけないし勢いでいっちゃえてなったからさほどきつくはなかったし、しゃべれるようになったきっかけになったのかなっていう感じです。

高：当日までのプレッシャーは結構大きかったんじゃない？

梅：そうですね。でも（北センターの）職員にも聞いてもらったし、まあ大丈夫でしょみたいな感じで言ってもらったから良かったです。

高：そっか。無茶ぶりしてごめんね笑。でも、応えてくれてありがとうございます。

高：今回ユースシンポジウムは“豊かさ”っていうテーマでやって、自分にとっての豊かさとか団体にとっての豊かさを考えてもらったと思うんだけど、それをあらためてこの場で教えてもらっているのかな。

筒：小学生中学生高校生と関わる場所があって、毎回来るときの表情も違うし、気分も違うし、そういう人たちのことを考えてレッスンをつくったりしてて、そこで難しいこととか大変でどうしたらいいかわからないこともあるけど、一緒に作ってる大学生と話したりして、こうしてみようかって試してみて、生徒に成長がみられたときはお金にも変えられなくて、私たちが作りだしたものとして幸せを感じるし、そういうところが豊かさなんじゃないかなって話はしました。

高：それはなぎちゃん自身も感じてる？

筒：感じてますね。

高：梅ちゃんにとっての豊かさはなんだろう。（準備期間中に企画の話をするなかで）自分が豊かになるために必要なものって何かを3つ挙げてたよね。

梅：お金と、友だちと・・・

高：スマホ。

梅：あーそうです。それは、楽しいとか幸せって思うときってどういうときっていうのをイメージしたんですよ。そういう風に思えるときに豊かに思えるのかなって思ってる。

高：なるほど。

高：なぎちゃんはDELPに入ってからそういう豊かさを感じてるけど、DELPを含めたなぎちゃんの人生にとってこれが私の豊かさだって感じるものはある？

筒：んー、DELPでもそうですしそれ以外もそうなんですけど、大学生同士でひとつのことについて真剣に話したり議論したりするのは今しかできない事だし、楽しいし、ただサークルとかでワイワイして楽しむっていう楽しさだけじゃない、ワクワクするなって感じたりとか、それをできることが豊かだなんて思いますね。そこに楽しみを感じられることが。

高：そもそもそういう仲間がいるってことだったりね。

筒：そうです。

高：今回の“豊かさ”っていうテーマはどうでした？来てくれた人と話をするにあたって、話しやすかった？それともとっつきにくかった？

筒：出展する側としては事前に伝えられてたからミーティングで話し合ったり準備はできたんですけど、参加者がきてくれたときに、自分たちの“豊かさ”を話すことはできるけど、対話にもっていくときに、参加者に考えてもらうテーマとしては、その場ではなかなか思いつかないし、ちょっと難しいテーマだったかなって。

高：そうだね。出展者には説明会とかでテーマについて説明できたけど、参加者は聞かれてもすぐに自分の考えが出てこなかったり、考える時間が必要になるから、対話っていうところでは難しい部分もあったかなと思う。

高：来年もユースシンポジウムがあって、参加してもらえるってことになったら、こんなテーマがいいとか、こんな話をしてみたいっていうのがあれば教えてください。トークフリマやフィールプレイスでもいいし、全体のテーマでもいいです。

筒：“豊かさ”みたいに広がりのあるテーマかはわからないんですけど、“仲間とは”みたいな。団体っていい組織かそうじゃないかって人と人とのつながりとかチームワークの良さとかにあると思うから、DELP以外の団体の仲間意識というか、仲間についてどう思ってるかとか、組織としてどうやって動いてるんだろうなっていうのは興味があります。DELPのメンバーともそういうこと話すから。

梅：うーん、若者の生きづらさとか、そういうことだったら聞いてみたいと思います。今はそうでもないですけど、自分自身が辛さを感じてる時もあったし。

高：それをどうやって乗り越えたのかとか、どうやって向き合っていけばいいのかっていう話が聞けたらいいね。